

重点施策における審議会評価・意見(案)

重点施策	審議会評価・意見	
	事務局(案)	委員(藤原案)
前文	<p>当古賀市男女共同参画審議会は、平成26年度は、点検・評価の対象となる事業の実施年度が平成25年度であり、第2次男女共同参画計画実施の2年目にあたり審議委員会委員の意見に基づき点検、評価すべき重点施策48項目中17項目を選定し、これまでと同様に点検・評価を実施した。今年度も、点検・評価をおこなう事業の担当課職員の出席を得て、直接質疑応答を実施できたことから、担当課の事業内容を深く理解することができ、点検・評価の向上につなげることが出来た。</p>	<p>当古賀市男女共同参画審議会は、平成26年度は、点検・評価の対象となる事業の実施年度が平成25年度であり、第2次男女共同参画計画実施の2年目にあたり審議委員会委員の意見に基づき点検、評価すべき重点施策48項目中17項目を選定し、これまでと同様に点検・評価を実施した。今年度も、点検・評価をおこなう事業の担当課職員の出席を得て、直接質疑応答を実施できたことから、担当課の事業内容を深く理解することができ、点検・評価の向上につなげることが出来た。</p>
①市民参加型の学習会、研修会及び地域講座の計画【総務課】	<p>「男女共同参画のつどい」は133人(女性89人男性44人)の参加があった。今まで参加が少なかった30代40代の参加が多かったのは成果として評価できる。ターゲットやテーマを絞ることで参加が少ない20代や男性の参加につながるのではないかと。取り組み方は年によって違ってよいと思う。人数の比較は2～3年前の実績を比較すると良くわかるので、標記頂きたい。減っても次のチャンスととらえることでマンネリにならないと思う。また、講師については、実績等の標記をお願いしたい。出前講座での寸劇については、マンネリ化してきているので新しい身近なものを考えていただきもっとPRしてほしい。女性委員交流セミナー(対象84人)については、女性8人(審議員4人・啓発推進委員2人・女性市議1人・一般1人)参加で参加者からは好評だっただけに、広報の方法を十分検討していただきたい。人数は少なかったが取組としては評価したい。</p>	<p>○「男女共同参画のつどい」は、講師の知名度が高かったこともあって133人(女性89人男性44人)のと多数の参加があり、つた。今まで参加が少なかった30代40代の参加が多く、男性の参加も少なくなかったのは成果として評価できる。今後も内容や方法を工夫し、ターゲットやテーマを絞ることで参加が、いまだに少ない20代や男性の参加につながることを期待したいのではないかと。取り組み方は年によって違ってよいと思う。アンケート結果から、概ね好評であったが、専業主婦にも配慮すべきとの指摘もみられた。なお、参加人数についてはの比較は2～3年間の実数前の実績を比較すると評価しやすい良くわかるので、標表記頂きたい。なお、参加者が減った場合は、減っても次のチャンスと見直し時期にきたと前向きにとらえる必要があることでマンネリにならないと思う。○「防災における女性の登用」のセミナーでは、講師として福岡市の自治会長を招いて実施し、49人の参加者中、男性が38人参加したことに加えて、内容も適切だったことは評価したい。また、ただし、講師については、実績等の標表記をお願いしたい。○出前講座での寸劇については、男性の参加が少なく、マンネリ化の傾向がみられるしてきているので、身近なテーマを捉えて新規作成し、新しい身近なものを考えていただきもっとPRして頂きたいほしい。○女性委員交流セミナー(対象84人)については、女性8人(審議員4人・啓発推進委員2人・女性市議1人・一般1人)のと参加が少なかったにも関わらず、で参加者からは好評であり、取組としては評価したい。だっただけに、今後は、参加数の増加に向けて広報の方法を十分検討していただきたい。人数は少なかったが取組としては評価したい。○上記、「つどい」、「セミナー」、「出前講座」の参加者延べ264人のうち、104人の男性の参加があったことは評価できる。</p>
②広報紙、行事予定表、ホームページ、情報誌等による情報提供【総務課・経営企画課・人権センター】	<p>「市民が参加したくなるような文面づくり」とは、参加したくなる内容や募集方法を工夫する必要がある。今回は講師がテレビでお馴染みだったこともあり30・40代をはじめ多数の参加があったことは、評価できる。今後も内容、募集方法を工夫し市民周知を押し進めていただきたい。また、ホームページ等に市民の意見を出せる欄を考えていただきたい。市民周知について、広報紙等で全戸配布して周知できているが、どのように伝わっているのか結果がわかりにくいこともあり、今後さらに周知については工夫願いたい。</p>	<p>○「市民が参加したくなるような文面づくり」とに関しては、参加したくなる内容や募集方法を工夫する必要がある。案内チラシの写真やイラストを工夫する、部内で協議する等、市民への周知を押し進めており評価できる。今回は講師がテレビでお馴染みだったこともあり30・40代をはじめ多数の参加があったことは、評価できる。今後も内容、募集方法を工夫し市民周知を押し進めていただきたい。また、○ホームページには、市長や担当課へコメントする欄があり、また、広報誌には行事の紹介や事後の報告、一行詩の案内等の掲載等によって周知が進んでいくことは評価できるが、さらに市民の意見を反映できる工夫をお願いしたい。等に市民の意見を出せる欄を考えていただきたい。市民周知について、広報紙等で全戸配布して周知できているが、どのように伝わっているのか結果がわかりにくいこともあり、今後さらに周知については工夫願いたい。</p>

重点施策	審議会評価・意見	
	事務局(案)	委員(案)
<p>①教育関係者への男女共同参画に関する意識の向上 【学校教育課・総務課】</p>	<p>学校での取り組みは、古賀市として人権の視点で子どもたちを細かく見ていき、古賀市独自にやっている小1プロブレム対策学級補助員・中1ギャップ対策教育等の取組は評価できる。また、「いのちのノート」という古賀市独自の取組も評価したい。一行詩については、具体的な整理の時期に来ているので、見直しをしていただきたい。表彰される児童、学校については今後も各学校から満遍なく選び、次の機会へとつなげて、さらに周知してほしい。企業等にも働きかけていくことなので実施していただきたい。</p>	<p>○年度当初に学校教育課主催で、男女共同参画を含む人権についての古賀市の基本的な姿勢についての教職員の研修会を、新しく市に赴任した教員、および、管理職教員に分けて実施している。○小中学校での取り組みは、古賀市として子どもたちの人権擁護の視点で子どもたちをきめ細かく指導がなされ、見ていき、古賀市独自の「いのちのノート」という古賀市独自の取組は、学校ごと、低・中・高学年ごとにそれぞれ冊子を作成し、さらに毎年、更新されていることは高くも評価したい。○一行詩については、平成24年度(2,143作品、1,136人)から、1,287作品、687人と半数近くに減少している。また、今まで継続して参加していた企業が不参加だった一方で、新規に参加した企業もみられる。さらに、小学校7校、中学校2校、高等学校1校、養護学校1校と、取組開始時に比べて参加校、作品数ともに大きく前進している。参加していない小中学校がある一方で、養護学校が参加しているのは注目されるが、マンネリ化の様相もみられ、10年目を迎える来年度は、団体表彰なども視野に入れて、内容、方法ともに見直して頂きたい。具体的な整理の時期に来ているので、見直しをしていただきたい。○審議会としても表彰される児童・生徒、学校については、今後もバランスに配慮して選出する予定である。今後も各学校から満遍なく選び、次の機会へとつなげて、さらに周知してほしい。担当課でも、募集の際、各学校や企業等にもへの働きかけをより徹底して頂きたい。ていくことなので実施していただきたい。</p>
<p>②幼児・児童・生徒への発達段階に応じた教育の促進 【学校教育課・青少年育成課・子育て支援課(保育所)】</p>	<p>男の子の子関係なく、一人ひとりの個性をもって、命を大切にしていける教育に対しては評価できる。今後も男女共同参画にのっとり「絵本・教材等」は選択してほしい。子ども子育て支援制度ができる民間保育所などいろんな施設が関わってくると思われるので、現在の実践を伝えて実践できるように願いたい。食育・排育については古賀市は先端をいっていると思うので、もっとアピール願いたい。また排育は古賀市から発信された言葉であり内容についても大切なものと評価したい。①にもあったが「いのちノート」についても、毎年更新していることも評価したい。今後公立保育所が減少する中、男女共同参画の取組は古賀市の私立保育園及び幼稚園に対しても研修や取組の継承や連携をお願いしたい。また、青少年の相談窓口も相談件数685件のうち性に関する相談が9件あったということで、今後も周知徹底や工夫をお願いしたい。性に関する教育や相談窓口に対しての実施状況等の記入がなかったので、今後は記入漏れのないように願いたい。</p>	<p>○進路指導は、男女に視点を置くのではなく、「個性・能力・興味関心」と、本人の資質や保護者のニーズに合わせて実施されている。また、学校行事等でも、運動種目や班構成を工夫して男女共同の取組を推進している。○保育所でも、排泄の躰等は別として、男の子の子関係なく、一人ひとりの個性をもって、命を大切にしていける教育を実施しておりに対しては評価できる。今後も男女共同参画にのっとり「絵本・教材等」は作成・選択して頂きたい。ほしい。○子ども子育て支援制度によって、保育所、幼稚園等については、公立・私立の差が懸念されるが、今後は連携しながら研修を実施し、食育・排育等の他市に先んじている古賀市ができる民間保育所などいろんな施設が関わってくると思われるので、現在の実践を継承し、同時に実施状況をアピールして頂きたい。伝えて実践できるように願いたい。食育・排育については古賀市は先端をいっていると思うので、もっとアピール願いたい。また「排育」は古賀市から発信された表現・理念であることは、その内容とともに高く言葉であり内容についても大切なものと評価したい。○学校教育のなかでも、性の逸脱行動の防止や薬物防止、ネットによる被害等に関して学校独自の取組をしている。①にもあったが「いのちノート」についても、毎年更新していることも評価したい。今後公立保育所が減少する中、男女共同参画の取組は古賀市の私立保育園及び幼稚園に対しても研修や取組の継承や連携をお願いしたい。また、○青少年の相談窓口も相談件数685件のうち性に関する相談が9件あったということでは、その存在意義を示しており、今後も周知徹底や工夫をお願いしたい。性に関する教育や相談窓口に対しての実施状況等の記入がなかったので、○なお、本欄に記述されていない項目があつことは残念であり、今後は記入漏れのないように願いたい。</p>

重点施策	審議会評価・意見	
	事務局(案)	委員(案)
①社会教育関係団体(PTA等)に対する男女平等教育の促進【生涯学習推進課】	年度当初、地域で新しい成人学級、女性学級が立ち上がって計画を立てる段階で、男女共同参画の出前講座を積極的に周知し、開拓願いたい。地域が変わっていくことはとても大事なことである。	○育成会の役員会については、年に1回の研修会で、‘自尊感情を高める子どもの育成’というテーマで実施されている。○分館教養学級は、年に1度の人権学習が義務づけられているが、年度当初、地域で新しい成人学級、女性学級が立ち上がって計画を立てる段階で、男女共同参画の出前講座を積極的に周知させ、さらに、新しい寸劇を開拓するなどの工夫をお願いしたい。一般的に、なかなか変わらないと言われている地域が変わっていくことは極めて有意義であるといえるとても大事なことである。
②関係資料の収集、提供【市立図書館・人権センター・総務課】	行政資料・ジェンダー白書等統計資料は毎年購入。特別展示等では目に触れて貸し出し増につながっていることは評価したい。増加の根拠として、具体的な数値がなければ「平置きにした図書を補充している」などの体感によることでも構わないので記載して欲しい。	○行政資料・ジェンダー白書等の統計資料は毎年購入している。○特別展示等、目につきやすい展示方法を心がけていることがでは目に触れて貸し出し増につながっていると推察され、ことは評価したい。なお、貸出数増加の根拠として、具体的な数値を示すことができない場合は、がなければ「平置きにした図書を補充している」などの取り組み実態を体感によることでも構わないので記載して欲しい。
①審議会等男女それぞれが40%以上の構成目標の達成【人事課・関係各課】	みんながいつでも意識できるように庁内LANに掲示するなど見える化というのは大事である。平成23年度に39.4%となり、平成26年度は36.7%、全体を見ると、非常に偏りが大きくて、ほとんど女性ばかりに近いところから、ほとんど男性ばかりに近いところもあり、平均として40%に近づけようというところであるが、数値目標を出したときには、具体的にどこをどう変えるという目標を出して、分析しないと数値目標は達成しにくのではないかと思う。財政課は、委員を委嘱する際、女性である条件を付して弁護士会等に依頼を行うなど積極的に動いていただき評価したい。○年度は重点的にこういう方向に変えるなど、具体的な目標が必要と考える。充て職でも必ずトップと書かれていることは、少ない。次席の方で、女性をとると、案外出てくるので、そこはやる気の問題がある。安全安心まちづくりは男ばかりで、問題だと思ふ。C(審議会の女性登用表)は動かさるんじゃないかと思う。そのCの部分に女性の割合0%が3つあり、この0%はなんとか無くす努力をしていただき、具体目標を立てていただきたい。まちづくりで男ばかりというのは、大問題である。積極的にしないと、なかなか数値は伸びていかないと思う。人事課の宿題は、管理職を30%以上ということにしてもらわないと、審議会もここ数年で下がってきているのは、問題である。人事課は、『進行管理を行っていく』とあるので、積極的に取り組んでいただきたい。	○みんながいつでも意識できるように情報を常時、庁内LANに掲示するなど‘見える化’というのは大事である。○女性審議委員の割合は、平成23年度に39.4%となり40%一歩手前まで来たが、平成26年度には36.7%に下降した。全体的にはを見ると、男女に大きく偏っている審議会もあり非常に偏りが大きくて、ほとんど女性ばかりに近いところから、ほとんど男性ばかりに近いところもあり、現段階では平均として40%に近づけようというところであるが、していることはわかるが、数値目標は、対象およびその数値を具体的に設定しなければ到達できないと思われる。を出したときには、具体的にどこをどう変えるという目標を出して、分析しないと数値目標は達成しにくのではないかと思う。今回40%に達した財政課は、委員を委嘱する際、女性である条件を付して弁護士会等に依頼するを行うなど積極的に動いていただきな取組がなされたことは評価したい。○年度ごとに、改善の対象とする担当課を設定し具体的な目標を立てること、充て職の場合も次席でカバーするなどの工夫も考えられる。は重点的にこういう方向に変えるなど、具体的な目標が必要と考える。充て職でも必ずトップと書かれていることは、少ない。次席の方で、女性をとると、案外出てくるので、そこはやる気の問題がある。○安全安心まちづくりは男性ばかりで、大きな問題だと思われる。C(審議会の女性登用表)は動かさるんじゃないかと思う。そのCの充て職ではない部分に女性の割合0%が3つあり、この0%はなんとか無くす努力をしていただきたい。、具体目標を立てていただきたい。まちづくりで男ばかりというのは、大問題である。積極的にしないと、なかなか数値は伸びていかないと思う。○人事課の宿題課題としては、充て職が占める割合から考えると、女性の管理職を30%以上という目標の到達が審議会委員40%に繋がることから、ことにしてもらわないと、審議会もここ数年で下がってきているのは、問題である。人事課は、『進行管理を行っていく』との人事課の取組に期待したい。あるので、積極的に取り
②女性の参画を推進する為の人財育成と情報の収集【総務課】	人財リストは、当然、整備されていなければならないものだと思うので、今後整理願いたい。男女共同参画に関する様々な研修に参加することで、男性も女性も生き生きと活動されている姿勢や、まちおこしにつながるなどたくさんの学びになり、全体的にも国や社会の流れがわかることから、今後も研修等への参加を通しリーダーを養成していただきたい。	○女性の審議委員経験者等の人財リストは、当然、整備されていなければならないものだと思うので、女性の参画を推進するためにも必須であり、今後、早急に整理願いたい。○市のリーダー養成事業である「日本女性会議」には審議委員2人を含めて3人が参加した。徳島県阿南市で開催され、地域のボランティアの活躍でスムーズに運営されていた半面、メインイベントの講演は、男女共同参画の考え方とは合致していないともいえる内容であった。分科会では子育て支援がビジネスになることへの違和感も感じた。○以上の他に「女性研究の翼」(1名参加)、「あすばるフォーラム」(5人参加)等、男女共同参画に関する様々な研修に参加することで各地域の活動実態を把握することができ、男性も女性も生き生きと活動されている姿勢や、まちおこしにつながるなどたくさんの学びになり、全体的にも国や社会の流れがわかることから、今後も研修等への参加を通しリーダーを養成を推進していただきたい。

重点施策	審議会評価・意見	
	事務局(案)	委員(案)
③女性委員の交流を促進するセミナー等の実施 【総務課】	女性委員セミナー「ワールドカフェ～言いたい放題交流会」の参加が8名と少なかったのはワールドカフェという言葉が馴染みがないこともあったのではと思う。もっとざっくりばらんな言い方のほうが横文字よりいいかもしれない。審議会の委員を経験することによって、議員に出来ましたという事例も他市町村ではあることから、そういう力をつける、交流をしていくということは大事だと思う。参加者は審議会女性委員が4人、啓発推進委員が2人、議員が1人、一般1名。次回より候補になりそうな人を一人引っ張ってくるなど、何かしないと増えないと思うので今後も工夫しながら取り組んでいただきたい。事務局が率先してファシリテーターをしたことは評価したい。	○女性委員セミナー「ワールドカフェ～言いたい放題交流会」の参加が8名と少なかったのは「ワールドカフェ」という 取組(手法) 言葉が馴染みがないことも 原因と考 えられ、 名称の工夫も必要であろう 。あったのではと思う。もっとざっくりばらんな言い方のほうが横文字よりいいかもしれない。審議会の委員を経験することによって、議員に なった 出来ましたという事例も他市町村に みられ 、ではあることから、そういう力をつける、 自由な話し合いによって 交流をしていくことは 大きな意義がある と考えられる 大事 だと思う。○参加者は審議会女性委員が4人、啓発推進委員が2人、議員が1人、一般1名。次回より、 審議委員が次期 の候補になりそうな人を 誘って 一人引っ張ってくるなど、何かしないと増えないと思うので今後も工夫しながら取り組んでいただきたい。 なお 、事務局が率先してファシリテーターをしたことは評価したい。
①役職者に男女それぞれ30%以上の構成目標の達成 【関係各課】	自治会長の女性の割合は平成24年が6.7%、平成25年が8.7%、平成26年が6.5%となっている。小学校のPTA会長の女性は8名中2名で25.0%、25年度が8名中1名で12.5%、26年度が0である。中学校は、24年3名中0、25年度が3名中1人で33.3%、26年度も3名中1人で33.3%。自治会は、46あるので、ここを増やす方策を考えた方が現実的と思うが自治会はそう簡単にいかないと考える。PTAはどこも副会長がいる。副会長はほとんど女性である。また、隣組長会議では、男女半々で、どちらかという女性の方が多いという実情がある。行政区長や隣組長には、実際に活動されている方の名前を出してくださいという願いはここ2年くらい一生懸命やっている。数値として出すかどうかは別として、男女共同参画の推進に取り組んでいることは評価できると考える。	○自治会長の女性の割合は平成24年が6.7%、平成25年が8.7%、平成26年が6.5%となっている。 PTA会長の女性の割合については、平成24年度、小学校のPTA会長の女性は8名中2名で25.0%、25年度が8名中1名で12.5%、26年度が0である。中学校は、24年3名中0、25年度が3名中1人で33.3%、26年度も3名中1人で33.3%。自治会は、46あるので、この女性の割合を増やす方策を考えた方が現実的とも考えられるが、思うが自治会は選出方法等も地域により異なり、長い歴史を持つ地域では女性の登用に抵抗があるなど困難点が多い。そう簡単にいかない と考える。 一方 、PTAはどこも副会長がいる。副会長は のほとんどが女性であり、実際に活動に携わるのも女性が大半である事を考えると、女性の会長は現実的ともいえる 。また、隣組長会議では、 出席者は男女半々で、どちらかという女性の方が多いという実情がある。行政区長や隣組長には、実際に活動されている方の名前での登録要請は出してくださいという願いはここ2年程前から強力で推し進めている。くらい一生懸命やっている。数値として表れてはいないとはいえ、出すかどうかは別として、男女共同参画の推進に取り組んでいることは評価できると考える。また、PTA会長に関しても、取り組み次第で女性会長の選出は可能であると判断され、今後、強力で推進して頂きたい。
②男女共同参画推進への理解合意を得るための啓発の実施 【総務課・関係各課】	○×クイズをやったり、寸劇をやったり、いろんなストーリーを作っているが、まだまだ、メニューが少ない。早めに周知しないと、みんな計画が立ってしまうので、早めの働きかけをお願いしたい。	○男女共同参画の現状を問う、○×クイズをやったり、 や 寸劇を 実施している 。 や たり、寸劇も いくつかの いろんなストーリーを作っている がおり 、参加者の反応も いい が、まだまだ、メニューが少ないのが 現実である 。また、 実施に関しても、参加者増のためにも早めに の周知しないと、みんな計画が立ってしまうので、早めの働きかけをお願いしたい。
③出資団体等への男女共同参画推進状況調査の実施 【総務課・関係各課】	出資団体には、男女共同参画の取組みをしてくださいと働きかけていただきたい。	○シルバー人材センターの男女比(男12人、女2人)、土地開発公社(男8人、女2人)と偏りが大きい。出資団体には、男女共同参画の取組み 理解し、実践して いただくようをしてくださいと働きかけていただきたい。

重点施策	審議会評価・意見	
	事務局(案)	委員(案)
①就労に関する情報提供、技能習得のための支援【子育て支援課】		○母子家庭の母親の就職や生活の安定に資するさまざまな自立支援事業に関しては、市民への周知を強化するとともに、今度も継続して取り組んで頂きたい。
②ひとり親家庭への支援施策の周知【子育て支援課】	ひとり親家庭の登録とサービス利用については、平成21年度は、登録と利用共に0件で、平成22年度は登録1件、利用1件。平成23年度は登録0件、利用0件。平成24年度は登録0件、利用0件。平成25年度は登録5件、利用3件であり、平成25年度に増えたのは、制度にマッチする人が多かったということである。教育委員会で実施している『就学援助』という事業があり、『児童扶養手当』というひとり親家庭への代表的な経済的支援の制度がある。具体的にどこまでそれが厳しい状況にあるのかというのは、個別にあたっていくしか方法がない、古賀市の場合は、全戸訪問を生後2ヶ月から始めている。それから養育に課題のある家庭等を把握しながら、保健師・看護師・保育士が訪問して、養育支援をやっている。学校の方からも、気になる家庭・気になる児童についての情報が、ネットに集約されるようになってきている。実態からというのは、本当に大事である。平成22年度の1件が父子家庭、25年度3件中1件は父子家庭という状況で、今年度から試行的に『子育て応援サポーター』事業を始められ、市の事業に関しては、若干の謝金を払っているとのことであるが、それにしても少なすぎるのではないかと思いますので、今後とも周知徹底を願いたい。	○ひとり親家庭の登録と支援員派遣のサービス利用については、平成21年度は、登録と利用共に0件で、平成22年度は登録1件、利用1件(父子家庭)。平成23年度、24年度は登録0件、利用0件。平成24年度は登録0件、利用0件。平成25年度は登録5件、利用3件(うち1件父子家庭)と増えており、該当者が増加したと考えられる。であり、平成25年度に増えたのは、制度にマッチする人が多かったということである。○子どもの貧困に関しては、教育委員会で実施している『就学援助』という事業があり、また、子育て支援課のひとり親家庭への代表的な経済的支援の制度である『児童扶養手当』というひとり親家庭への代表的な経済的支援の制度がある。具体的な状況に関しては、どこまでそれが厳しい状況にあるのかというのは、個別にあたっていくしか方法がない、古賀市の場合は、全戸訪問を生後2ヶ月から始めて、いる。それから養育に課題のある家庭等を把握しながら、保健師・看護師・保育士が訪問して、養育支援をやって実施している。学校の方からも、気になる家庭・気になる児童や児童についての情報が、ネットに集約される仕組みができてきている。ようになっている。実態からというのは、本当に大事である。○支援員の派遣については、平成22年度の1件が父子家庭、25年度3件中1件は父子家庭という状況で、今年度から試行的に『子育て応援サポーター』事業が開始され、を始められ、市の事業に関しては、若干の謝金を払っているとのことであるが、それにしても少なすぎるのではないかと思いますので、利用者の発掘のためにも今後とも周知徹底を願いたい。
①母体の保護と母子保健対策の推進【予防健診課】	ガン検診の受診率が前年度と比較して向上したことを数字で表記されており、非常にわかりやすく記載されていることを評価したい。他の課もこのようにわかりやすく記入願いたい。商工会では、国民健康保険の事業者団体が多いが受診率が低いので毎年集会や年に2回ほど周知に来てあるので、是非報告にいらして頂きたいし、このことも評価したい。	○検診の無料クーポン券の配布や各種イベント等での呼びかけが、知識の普及と受診のきっかけとなり、ガン検診の受診率が前年度と比較して向上したことは高く評価できる。また、受診率の推移がを数字で表記されており、非常にわかりやすく記載されていることは、今後の目標設定に繋がりことから、高くを評価したい。(他の課も見本として頂きたい)このようにわかりやすく記入願いたい。○商工会では、国民健康保険の事業者団体が多いがにも関わらず受診率が低い。ので毎年集会等や年に2回ほど担当課が周知に出向いていることは来てあるので、是非報告して頂きたいし、にいらして頂きたいし、このことも活動としても評価したい。

重点施策	審議会評価・意見	
	事務局(案)	委員(案)
②男女の心身の健康保持のための支援及び情報提供【予防健診課・生涯学習推進課・青少年育成課】	健康診断では、個人通知があり、はがきが個人に来るとするのは気持ちを後押しさせてくれて、受診率が上がり意味があるもので、周知についても駅などあらゆるところで、みかけるので、きめ細かく健診を受ける努力をされてあり評価したい。ゲートキーパー研修では職員の回答「自殺について関連あることを相談されたことがある」をキャッチし、全員の受講につなげたのは評価できる。これにとどまらず、広げていくことも考えていただきたい。アンケート集計も今後は掲載願いたい。講座では男性の参加が少ない。リタイアの後の地域参加が難しいが今後必要なことと思う。HIVや性感染症については学校に通っているところは学校教育課、そのほか18才までは青少年育成課であつまっているが今後連携等も含めて検討願いたい。	○市民講座「笑いヨガ」は、脳の活性化に繋がり効果が期待できる。また、出前講座「ウォーキングで健康づくり」は15回実施され、2回の市民ウォーキングは約850人が参加し、いずれも心身の健康保持に役だっていると判断され、今後も内容等を工夫しながら継続して頂きたい。○市のイベント等で実施された各種健康測定では、延べ3,917人の受診があつたことは、健康管理の啓発に大きな意義があつたと考えられ、今後も発展的に継続願いたい。○健康診断では、年に2回の個人通知の発送、JR駅に申し込み用紙を置く等の取組は受診率アップに大きく貢献していると考えられ、高く評価したい。があり、はがきが個人に来るとするのは気持ちを後押しさせてくれて、受診率が上がり意味があるもので、周知についても駅などあらゆるところで、みかけるので、きめ細かく健診を受ける努力をされてあり評価したい。○ゲートキーパー研修では、前年の職員アンケートから自殺についての相談が多かつたことが判明し、の回答「自殺について関連あることを相談されたことがある」をキャッチし、全員の受講につなげたのは評価できる。これにとどまらず、広げていくことも考えていただきたい。なお、アンケートの集計結果も今後は掲記載願いたい。○各種の講座では男性の参加が少ないことが課題といえ、リタイアの後の男性の地域参加を推進できる方策を検討願いたい。が難しいが今後必要なことと思う。○HIVや性感染症については、通学者は学校に通っているところは学校教育課、そのほか他、18才までは青少年育成課が担当しており、国や県からポスターも配布されている。であつまっているが今後は連携等も含めて検討願いたい。
①性と生殖に関する健康・権利に関する情報及び学習機会の提供【総務課・関係各課】	小中高校と、講演等の開催をしていることについては評価したい。しかし、それぞれの学校のある程度の足並みはそろえることが必要だと考える。卒業までには必ず1回は、触れて欲しい問題で、これからも学校教育課との連携を密にお願いしたい。また、アンケート等の結果も記入願いたい。	○デートDVは市内の2つの高等学校で講演を実施し、生徒アンケートの結果からも、効果が実証されており、引き続き実施して頂きたい。○性教育の実施については、学校からの要請をもとに実施していることから、学校差があることが課題ともいえ、今後はその解消に努めて頂きたい。小中高校と、講演等の開催をしていることについては評価したい。しかし、それぞれの学校のある程度の足並みはそろえることが必要だと考える。卒業までには必ず1回は、触れて欲しい問題で、これからも学校教育課との連携を密にお願いしたい。また、アンケート等の結果も記入載願いたい。
全体的なもの	全体的に実際に実践したことの記入漏れが多く、せっかく実践していても記入がないと伝わらないので、もっともれのないように願いたい。PRやアピールとしてもったいないと思う	全体的に実際に参加者数等の実践結果したことの記入漏れが多いのは残念である。←、せっかく実践していても記入がないと伝わらないので、もっともれのないように願いたい。今後の取組に向けて、結果を明確に記述して反省を踏まえながら、PRやアピールをしていくことは、市民に対する義務ともいえ、一方では、部内の士気の高揚に繋がるのではないだろうか。としてみたいないと思う